

多職種連携にICT活用

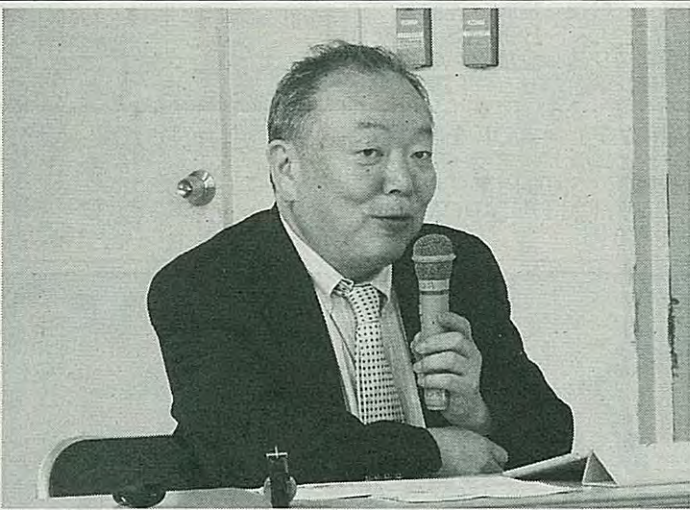
三木氏 運用事例を解説

とよひら・りんく

豊平区の西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」(会長・五十嵐知文西岡病院副院長)は、2018年度第1回合同会議を開催。みぎファミ

リークリニック(東区)の三木敏嗣院長が、プライベートSNSなどICTを用いた医療介護連携の実践と運用について実例を交えて解説した。ICTを利用するメリ

ットとして、全員に同時に発信できる情報の均一化や、事前情報を活用する



使用画面を用いて解説する三木院長

力作業などを課題に挙げた。

プライベートSNSは限定された交流範囲で情報共有でき、オープンSNSに比べてプライバシーやセキュリティを高く維持できると利点を強調した。

16年11月〜17年3月に札幌が行った患者情報共有ネットワーク試験運用には、医療介護関係8職種、25事業所、68人が参加。登録患者は19人で、プライベートSNSを専用端末と統一IDで運用し、情報を共有したという。

訪問ヘルパーが患者の状態変化を医師に報告し、その場で指示を受けられたことや、入院依頼から受け入れまで迅速に行えたことなど有効事例を紹介。

休日・夜間の情報共有や緊急入院時の情報伝達がうまくいかない場合があり、今後の検討課題とした。

とよひら・りんくは、医療関連メーカーの情報共有システムを導入し、運用を開始している。